

個人投資家の皆様の相場環境等に対する意識調査のため、2022 年 6 月 3 日から 6 月 7 日までインターネットを通じて、マネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。回答いただいた皆様のご協力に感謝いたします。誠にありがとうございました。

今回、定例調査である個人投資家の相場観の調査に加え、特集として「2022 年の日経平均株価、ダウ平均株価の高値安値予想」、「今後の企業業績にプラスとなるもの」、「個人投資家視点の株主優待制度」について調査しました。（当社ウェブサイトへの掲載日は、2022 年 6 月 15 日です）

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査としてアンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009 年 10 月に第 1 回サーベイを行い、2009 年 11 月から 2016 年 3 月までは月次で、2016 年 4 月から 2016 年 12 月までは隔月、2017 年 3 月以降は四半期毎に調査結果を公表しています。

また、グループ会社であるトレードステーション証券（米国）、マネックスBOOM証券（香港）の個人投資家の皆様にも調査を行い、調査結果を「MONEX グローバル個人投資家サーベイ」として公表しております。2011年6月から2016年3月までは四半期毎、2016年6月以降は半年毎、2018年12月以降は、1年毎に調査結果を公表しています。

## ■調査結果

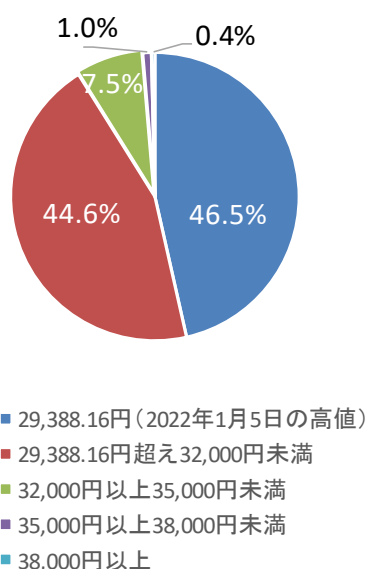
### 【特別調査】

#### 1. 2022年の日経平均株価、ダウ平均株価の高値安値予想

特別調査の1つ目として、2022年の日経平均株価、ダウ平均株価の高値安値予想を調査しました。

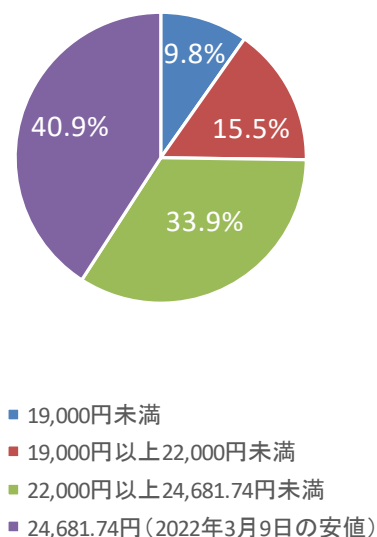
#### 1-1. 2022年の日経平均株価の見通し、高値予想は「29,388.16円（2022年1月5日の高値）」が最多 【6月3日の終値：2万7,761.57円】

グラフ1-1：日経平均最高値予想



(出所)マネックス証券作成

グラフ1-2：日経平均最安値予想

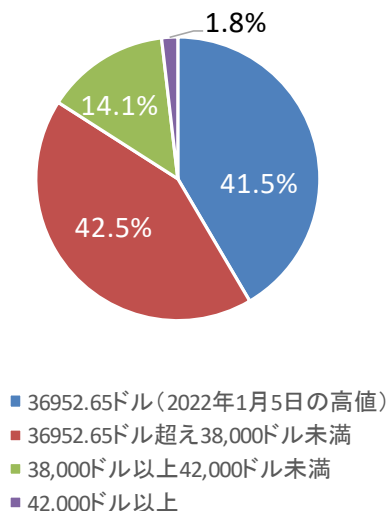


(出所)マネックス証券作成

2022年の日経平均株価の高値と安値予想をたずねました（調査開始日6月3日終値は27,761.57円）。2022年の日経平均株価の高値予想は「(2022年に入ってからの高値である)29,388.16円」の割合が46.5%と最も高くなりました。続いて「(2022年に入ってからの高値である)29,388.16円を超え32,000円」の44.6%で、この2つの回答で92%以上と、多くの個人投資家が今年の高値にあまり強気でないことがわかりました。また、日経平均株価の安値予想は「(2022年3月9日の安値である)24,681.74円」の割合が最も高くなりました。続いて「22,000円以上24,681.74円」でした。今年の高値はもう割らないと考えている投資家が最も多い一方で、一段の安値を見込む投資家も一定数いることがわかりました。

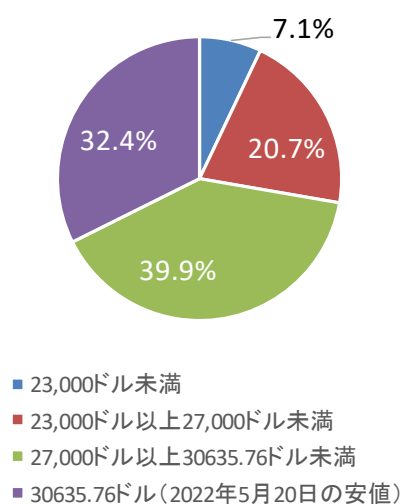
1-2. 2022 年のダウ平均株価の見通し、高値予想は「36,952.65 ドル超え 38,000 ドル未満」が最多  
 【6 月 3 日の終値：3 万 2,899.70 ドル】

グラフ2-1: ダウ平均最高値予想



(出所) マネックス証券作成

グラフ2-2: ダウ平均最安値予想



(出所) マネックス証券作成

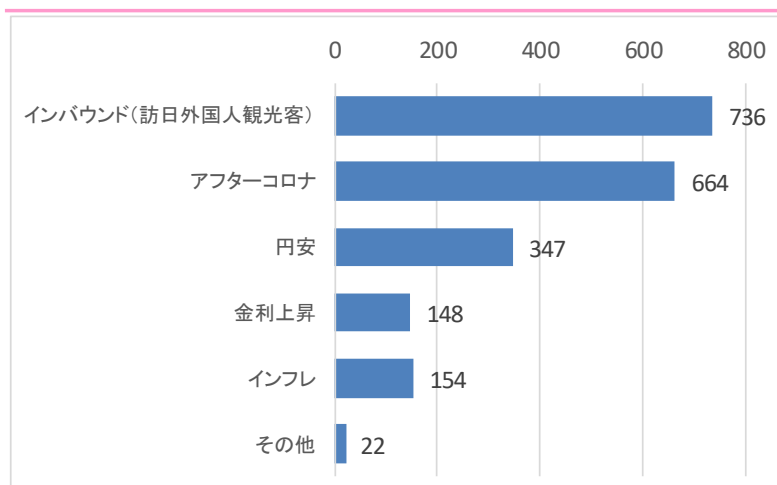
2022 年のダウ平均株価の高値予想は「(2022 年に入ってからの高値である) 36,952.65 ドル超え 38,000 ドル未満」の割合が 42.5%と最も高くなりました。続いて「36,952.65 ドル」でした。高値更新を見込む投資家と高値超えができないと考える投資家の割合が拮抗していることがわかりました。また、ダウ平均株価の安値予想は「27,000 ドル以上 30,635.76 ドル (2022 年 5 月 20 日につけた安値) 未満」の割合が最も高くなりました。続いて「30,635.76 ドル」で、安値更新を見込む投資家が最も多く、次にもう安値は割らないと考えている投資家の順となりました。

2. 今後の企業業績の追い風になるものとは

特別調査の2つ目として今後の日本企業の業績にプラスとなる要素は何になると思うか、キーワードをたずねました。

2-1. 今後の企業業績にプラスとなるキーワード上位は1.インバウンド（訪日外国人観光客）、2.アフターコロナ、3.円安、の順

グラフ3-1: 今後企業業績にプラスとなるもの

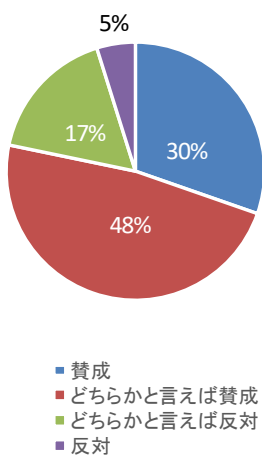


(出所) マネックス証券作成

最も多かったのが「インバウンド（外国人観光客）」で、続いて「アフターコロナ」、「円安」の順となりました。数年前まで日本企業の業績に大きなプラスとなっていたインバウンドが再び業績の追い風になるとの期待が大きいことがわかりました。また、コロナ禍でやりたいことを我慢していた方が多い中、アフターコロナでの消費復活等に期待している方も多いようです。

2-2. インバウンド（訪日外国人観光客）の受け入れ再開賛成は78%

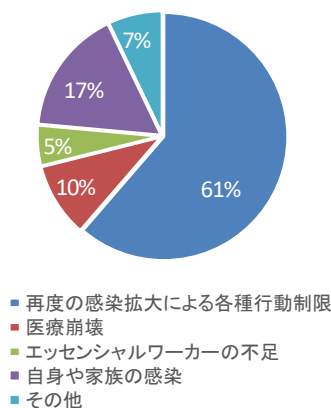
グラフ4-2: インバウンドの受け入れ再開について



(出所) マネックス証券作成

グラフ4-3: インバウンドの受け入れ再開の懸念点

「反対」「どちらかと言えば反対」の225名の回答



(出所) マネックス証券作成

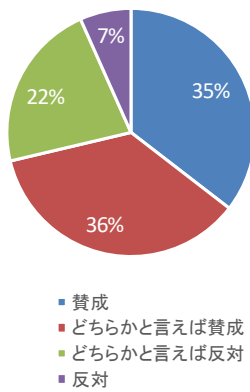
インバウンド（外国人観光客）の受け入れ再開についての賛否をたずねました。「賛成」が30%「どちらかと言えば賛成」が48%をあわせて78%と8割近い投資家が賛成意見を持っていることがわかりました。前問でもあった通り、外国人観光客の受け入れ再開が日本企業の業績の追い風となり日本経済の回復要因になるとの期待が高いのかもしれませんが。また、受け入れに「反対」「どちらかと言えば反対」と回答した方に懸念点をたずねたところ、「再度の感染拡大による各種行動制限」を挙げた方が61%と最も多くなりました。

### 3. 個人投資家視点での株主優待制度について

昨今廃止する企業も増えている株主優待制度について、個人投資家視点での賛否をたずねました。

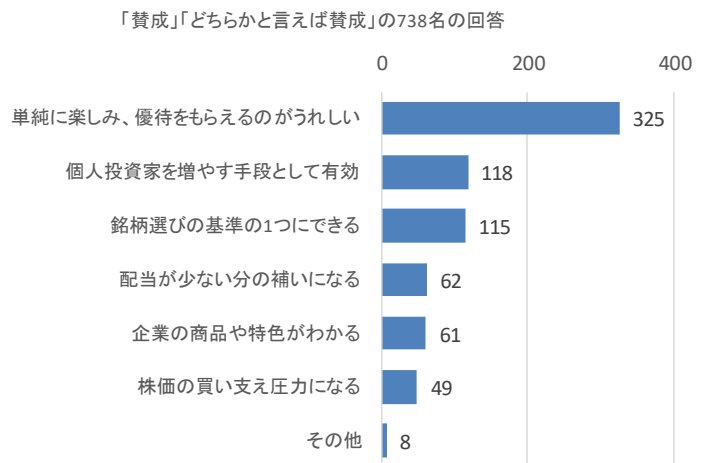
#### 3-1. 株主優待制度に賛成、どちらかと言えば賛成は71%

グラフ5-1: 株主優待制度について



(出所) マネックス証券作成

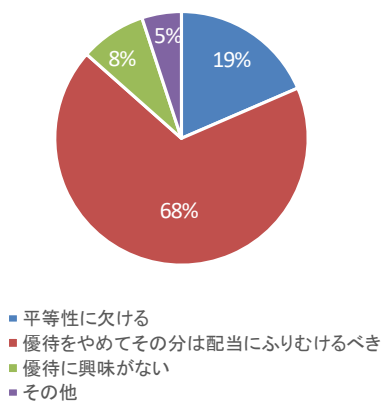
グラフ5-2: 株主優待制度に賛成の理由



(出所) マネックス証券作成

グラフ5-3: 株主優待制度に反対の理由

株主優待制度に反対、  
どちらかと言えば反対の297名の回答



(出所) マネックス証券作成

企業が株主優待を実施することへの賛否をたずねたところ、「賛成」が 35%「どちらかと言えば賛成」が 36%で 7 割を超える投資家が株主優待に賛成していることがわかりました。賛成の理由で最も多かったのは「株主優待をもらうのが楽しみ」との回答でした。また、「反対」「どちらかと言えば反対」の方に理由をたずねたところ、「優待はやめてその分は配当にふりむけるべき」との回答が 68%と最も多くなりました。

【定例調査～個人投資家の相場観について～】

4. 日本、米国、中国の DI について

今後 3 ヶ月程度の各国（日本、米国、中国）の株式市場に対する個人投資家の見通しは、3 指数揃って前回調査（2022 年 3 月）から改善しました。中でも日本株 DI は前回調査と比べて 35 ポイントの大幅上昇となりました。米国株等に比べて底堅さの目立つ日本株への期待が高まったのかもしれませんが。

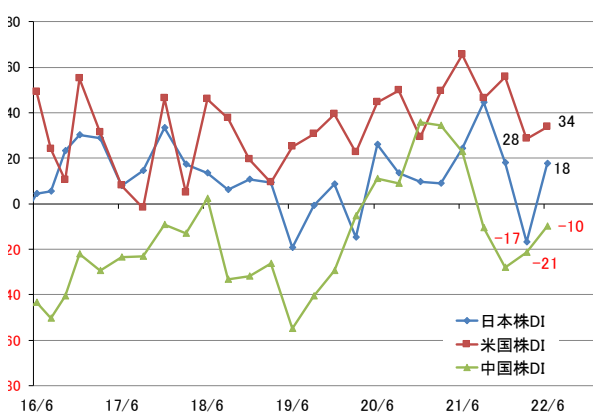
【日本株 DI】（2022 年 3 月） -17→（2022 年 6 月） 18（前回比+35 ポイント）

【米国株 DI】（2022 年 3 月） 28→（2022 年 6 月） 34（前回比+6 ポイント）

【中国株 DI】（2022 年 3 月） -21→（2022 年 6 月） -10（前回比+11 ポイント）

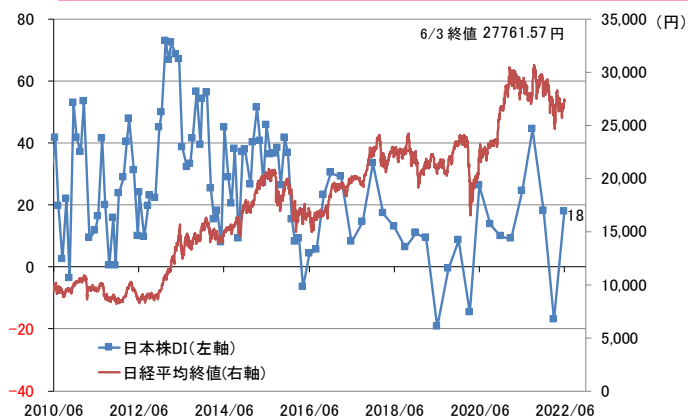
※ DI：DI とは、相場が「上昇すると思う」と回答した割合（%）から「下落すると思う」と回答した割合（%）を引いたポイントです。DI がプラスとは、「上昇すると思う」と回答した割合が高く、DI がマイナスとは、下落すると思うと回答した割合が高いことを示します。

グラフ6-1: 今後3ヶ月程度の株価予想



(出所) マネックス証券作成

グラフ6-2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



(出所) マネックス証券作成

## 5. 為替市場について

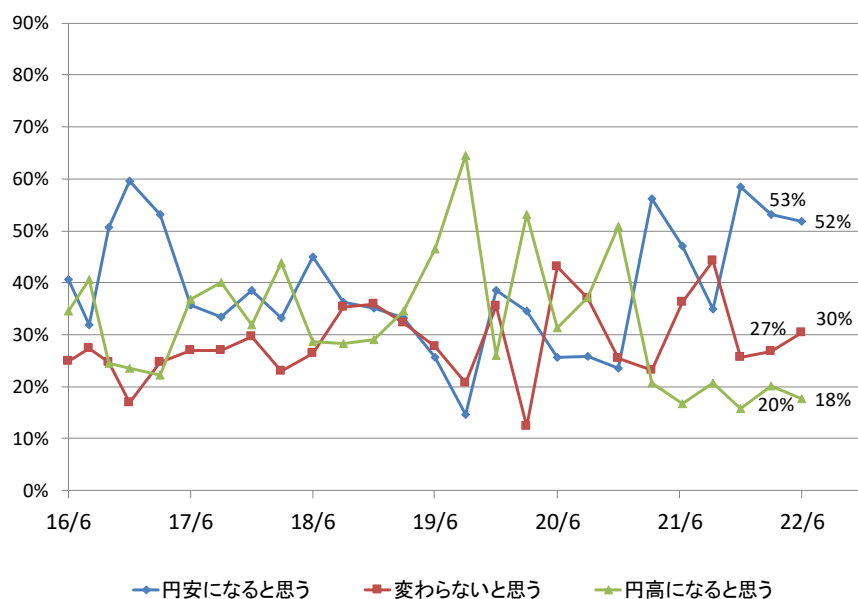
今後3ヶ月程度の米ドル/円相場の見通しについてたずねました。「円安になると思う」「変わらないと思う」「円高になると思う」との回答の割合とも前回調査と大きな変化はありませんでした。

【円安になると思う】(2022年3月) 53% → (2022年6月) 52% (前回比-1%)

【変わらないと思う】(2022年3月) 27% → (2022年6月) 30% (前回比+3%)

【円高になると思う】(2022年3月) 20% → (2022年6月) 18% (前回比-2%)

グラフ7: 今後3ヶ月程度の米ドル/円相場予想



(出所) マネックス証券作成

## ■総括 (マネックス証券 マーケット・アナリスト 益嶋裕)

今月の調査では日経平均株価とダウ平均株価の今年の高値、安値の予想、日本企業の業績のプラスになる要因、外国人観光客(インバウンド)、株主優待についての賛否など様々な質問をさせていただきました。

日本企業の業績のプラスになる要因については「外国人観光客(インバウンド)」との回答が最も多く、受け入れについても賛成姿勢を示す投資家が多いことがわかりました。筆者もこれは同じ考えで、今後の日本経済にとってインバウンドが大変重要なキーワードになると考えています。

また、株主優待については費用増や平等性の観点等から廃止・縮小を発表する企業が多くみられていますが、株主優待に賛成している投資家も多くいることがわかりました。筆者も株主優待は個人投資家に株式投資の楽しさや長期保有の大切さを教えてくれるプラス要素も多い制度と考えており、相次ぐ廃止や縮小には残念な気持ちを持っています。

ようやく世界や日本はコロナ禍から次のステップに進みつつあるようです。ぜひ今後も明るい気持ちをもって、投資をしていただけるよう質の高い情報発信に努めてまいります。今月も皆様のおかげで大変有意義な調査を行うことができました。ご協力本当にありがとうございました。

2022年6月13日執筆



## ■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家  
 回答数： 1,035  
 調査期間： 2022年6月3日～6月7日

### 【性別】

男性	女性	回答しない
80.4%	17.8%	1.8%

### 【年齢】

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
0%	1.6%	12.2%	24.3%	30.9%	19.9%	11.1%

### 【金融資産】

500万円未満	500万円～1000万円	1000万円～2000万円	2000万円～5000万円	5000万円～1億円	1億円以上
18.6%	18.4%	18.6%	24.3%	13.6%	6.4%

### 【売買頻度】

デイトレード	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
3.5%	13.3%	36.7%	26.9%	19.6%

### 【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
6.4%	21.7%	17.9%	54.0%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・ グラフの数値は、小数点以下の計算により合計が必ずしも100.0%とならない場合があります。

## マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
 一般社団法人 日本暗号資産取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会